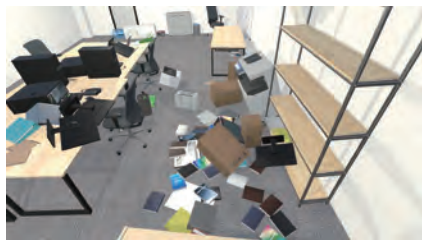


兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科
平井准教授 監修

パーソナル地震再現 VRシミュレーター VRS-100



Personal
Earthquake
Simulator



日本初
Japan's first

STEP 1

地図上から
任意の場所を
選択

STEP 2

生成された地震波を
クラウドDBから
ダウンロード

STEP 3


選択した場所で
発生する地震を
VR疑似体験

パーソナル地震再現VRシミュレーター「VRS-100」は、VR技術を活かして、任意の場所で発生する地震の疑似体験ができる装置です。(※1)

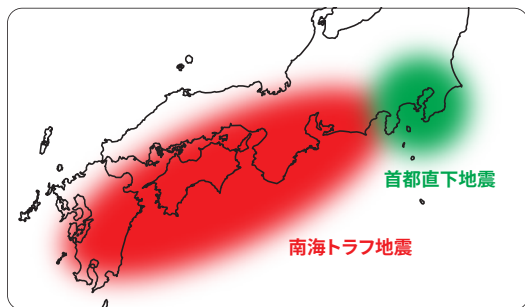
- **日本全国の任意の場所で発生する地震予測をVR疑似再現**(※1)
- 国立東京工業高等専門学校が設計開発した「**シンクロアスリート**」で手軽に体験
- **小型軽量**でどこでも持ち運び体験可能

パーソナル地震再現VRシミュレーター「VRS-100」設定画面



- 1 地図上から任意の場所を選択
- 2 緯度経度が表示され、地震波を生成しクラウドDBからダウンロード
- 3 部屋タイプと想定階数を入力

- 4 体験する地震波形が表示される
- 5 プリセットされた場所の一覧

地震シナリオ選択の方針



指定された地点により、以下の優先順位で地震シナリオを適用します。

- 1 首都圏 → 首都直下地震
- 2 西日本の太平洋側 → 南海トラフ地震
- 3 それ以外の場所 → 指定された位置近傍に存在する活断層の地震

地震シナリオ「首都直下地震」について

一般的に「首都直下地震」とは、内閣府中央防災会議「首都直下地震モデル検討会」により平成25年12月に想定された26種類の地震シナリオの総称です。

今回作成した地震動生成プログラムでは、これらの地震シナリオのうち「都心南部直下」地震を採用しています。



参考: 首都直下地震モデル検討会

地震シナリオ「南海トラフ地震」について

一般的に「南海トラフ地震」とは、南海トラフ沿いでフィリピン海プレートとユーラシアプレートとの境界面を震源として発生する地震のことであり、歴史的に見て震源域の広がりにはバリエーションがあります。そのため、内閣府中央防災会議「南海トラフの巨大地震モデル検討会」では、将来の南海トラフ地震の被害想定にあたり、複数の地震シナリオを設定しています。

今回作成した地震動生成プログラムでは、そのうち「最大クラスの地震」による揺れを生成します。



参考: 南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ「南海トラフ巨大地震の被害想定(第二次報告)」

(※1) 地震波形の自動生成について

名古屋大学減災連携研究センター / 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 平井准教授 / 有限会社アシストコム の共同発案にて構築した「地震時建物応答可視化システム」をもとに任意の場所での地震波形の予測が可能なシステムに機能拡張をいたしました。

スペック

- モーション: 3自由度 (ピッチ・ロール・ヒープ)
- 可動域: ピッチ±19.44°・ロール±16.61°・ヒープ±60mm
- 最大搭乗重量: 120kg
- 消費電力: 900W (最大)
- 装置重量: 35kg (機械部のみ)

お問い合わせ

✉ sales_division@crossdevice.co.jp

☎ 03-3291-2388

株式会社クロスデバイス AVRソリューション事業部 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-10-1 平富ビル6F

● 製品企画開発: 株式会社クロスデバイス ● 技術協力: 有限会社アシストコム